

# 平成24年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園療育相談事業			会計	款	項目	大	小
				01	03	02	07	02
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）		主管課	障害者支援課			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	増田 恒夫			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	0歳から18歳未満の児童とその保護者	意図	心身の成長や発達に心配のある乳幼児及び児童に対し、専門的かつ総合的な相談室を開設し、障害児の早期発見、早期療育を実施する。
事業内容	相談、面接、診察、指導訓練、総合的な相談などを通し、効果的な療育支援を行い社会的自立と地域生活に向けての支援をする。			
事業開始から現在までの状況変化	心身の成長や発達に心配や不安のある児童の相談を関係機関も実施しているが、情報の一元化がなされていない為、保護者が療育に対し混乱を生じる等、その後の療育指導に支障をきたすことから、医師会の協力を得、療育相談事業を開始した。医師の診察、心理相談員や言語聴覚士による検査を実施している。また療育支援会議をとおり、関係機関（教育委員会、保育所、保健センター等）との連携を図っている。また、保育所・幼稚園からの相談件数が増加傾向にある。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成22年度	平成23年度	平成24年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	相談、診察件数	390	514	576	
②	面接・指導訓練件数	1,110	1,014	1,111	件	↑↑↑	
③							
④							
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 総合的な相談をとし、障がいの早期発見・早期支援に努めている。
事務事業のコスト		平成22年度	平成23年度	平成24年度	個人相談だけではなく、保育所、幼稚園からの巡回相談・指導が望まれ、その件数が増えている。		
事務事業の総コスト(a=b+c)		20,077,950	21,654,031	23,090,867			
事業費(b)(円)		4,903,850	6,123,231	8,033,427			
うち一般財源		4,903,850	4,055,304				
職員給与費(c)(円)		15,174,100	15,530,800	15,057,440			
人役・職員(人)		2.05	2.05	2.00			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)				0.64			
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H24)の改善計画	相談員の相談業務に関する質の向上を強化する。 保育所・幼稚園からの相談支援への対応を強化する。	③取り組みの課題	児童発達支援センターとして障害児相談支援事業、保育所等訪問支援事業にむけて人的強化が必要になる。
②今年度(H24)に実施した取り組み	相談支援専門員研修を受けさせ、相談支援専門員の資格を取らせた。 副園長が保育所・幼稚園の相談支援への協力として巡回相談を行った。	④今後の改善計画	平成27年4月から人員や組織を整備し、児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして事業を実施できるように準備する。